

令和元年度 水泳指導中（課外活動含む）におけるヒヤリハット事例（6月）

【事例1】

学校種	小学校
発生月	6月
活動時間（場所）	体育の授業（プール）
事案	11時20分頃、児童が泣きながら保健室に来室する。「プールで溺れた」と言う。プールで泳ぐのをやめ、足を着こうとしたが思った以上に深く、溺れて水を飲んでしまったようである。何とか自分の力で浮いたが、その後、頭が痛くなった。しばらくすると元気になり、いつも通り生活した。
原因	<ul style="list-style-type: none"> 児童に対して、プールの深さについての注意喚起が不十分であった。
対策	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に、プールの深さについて確認をする。 習熟度別のコースに分かれて学習する。

【事例2】

学校種	小学校
発生月	6月
活動時間（場所）	体育の授業（プールサイド）
事案	<ul style="list-style-type: none"> プールサイドに地面の温度を上がりにくくするための青いシートを敷いていたが、その上で児童が転倒。 出血などの怪我は無かったが、体を打ち付けた。 頭部や顔を強く打ち付け、大怪我につながる可能性もあった。
原因	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が、青いシートが濡れたときに滑りやすくなることを知らなかった。
対策	<ul style="list-style-type: none"> 児童が濡れた状態でも滑りにくいシートに種類を変更して設置した。 児童に対し、プールサイドの歩行の仕方や足下に注意して歩くことを指導した。

【事例3】

学校種	小学校
発生月	6月
活動時間（場所）	プール
事案	水泳指導後、更衣中あるいは更衣をすませた児童の多くが、体のかゆみやチクチクする痛みを訴えた。
原因	水泳学習の時間内に、プールサイドで甲羅干しをした。その際、プールサイドに付着していた塩素が体に付いたのではないかと考える。
対策	学校医に児童の症状について報告し、対応について相談した。児童は、再度シャワーで体を十分に時間をかけて洗い、プールサイドを教職員で流水で洗い流した。

【事例4】

学校種	中学校
発生月	6月
活動時間（場所）	体育授業（プールサイド）
事案	<ul style="list-style-type: none"> ・プールサイドフェンス外側にはげの木があった。 ・生徒が触れていたらかぶれていたと思われる。
原因	<ul style="list-style-type: none"> ・教員がはげの木だと気づくのが遅れた。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに根元から切った。 ・今後、注意してプールの環境整備をする。